

## 地域企業・産業資料デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する地域企業・産業資料のうち、印刷物および近代の文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものととして了解下さい。写りの悪い資料については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (5) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (6) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 27 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 15HP8021 の交付を受けて作成しています。

秘

特殊鋼増産計畫

18.5.1  
本社作業局

ノハロ

鋼鋼電氣炉工場 = 80 T 級ケルホット炉<sup>ホット</sup>ヲ三基建設シ、同時ニ第一号電氣炉  
(旧電炉内)一基及ビM<sub>2</sub>電氣炉ヲ引割ニ移設シ、且ツ炉容ヲ擴大シ(Thawed Area) 許  
限内) 次ノ如ク出鋼ス。

25 吨炉	4 基	180,000 Ton	} 216,000 Ton
18 吨炉	1 基	32,400 "	
第一号電氣炉		3,600 "	
第一電炉課			70,000 Ton
合計		286,000 Ton	出鋼ス。

統制會、要望ハ特殊鋼々々 200,000 Ton 以上ヲ歩止リ 50% 以上増加シ 400,000 Ton  
ノ出鋼ヲ要ス。然レニ從來、受註狀態ヲ見ルニコレ<sup>ノ</sup>量ハ合金鋼、<sup>ノ</sup>炭素鋼ナリ、  
400,000 Ton  $\times \frac{2}{3} \approx 270,000$  Ton 合金鋼  
400,000 "  $\times \frac{1}{3} \approx 130,000$  " 炭素鋼

即チ合金鋼、統制會、要望ヲ満足ス。炭素鋼ハ現有平炉又ハ塩基性<sup>ノ</sup>酸性  
ニ変更シテ高級炭素鋼ヲ出鋼スルニトス。然レニ現在特殊鋼 65,000 Ton 尙ホ大ニ生

産ナリ。 200,000 Ton 65,000 Ton  $\approx$  135,000 Ton

普通鋼 135,000 Ton, 減産トスルベシ。之ニ對シテハ、海南島、鉛石ヲ増産使用

余ニ補

スル<sup>ト</sup>トニ依リ補充ヲ得ベシ。

兼ニ補<sup>ニ</sup>補<sup>ニ</sup>ナリテハ、鮮肉鋼材自給計畫ニテ平炉 2 基並ニ八中番<sup>ノ</sup>第一  
分場工場ノ移設ヲ計畫セルヲ以テ、之ニ合流スルニ同時ニ遼<sup>ノ</sup>東電氣炉 10 T 級  
6 基ヲ移設スル<sup>ノ</sup>次、生産ヲ擧<sup>ゲ</sup>ル。

合金鋼統制會ヨリノ要望ハ特殊鋼々々 100,000 Ton 生産ナリ、然レニ從來、  
註文狀況ヨリ見ルニ<sup>レ</sup>ノ<sup>ノ</sup>量ハ合金鋼ナリ、

70,000 Ton  $\times \frac{2}{3} \approx 47,000$  Ton 合金鋼  
歩止率 50% 見テ

47,000 Ton  $\times 1.50 = 70,500$  Ton 生産ヲ要ス。

10 T 電氣炉<sup>ノ</sup>一<sup>ノ</sup>年合計并法ニテ探査スルニキハ年 18,000 Ton 出鋼ナリ、

18,000 Ton  $\times 6 = 108,000$  Ton 出鋼ナルヲ以テ充分ナリ、

残部<sup>ノ</sup>量即チ 70,000 Ton  $\times \frac{1}{3} \approx 23,000$  Ton 炭素鋼ニテ平炉ニテ出鋼スル  
ニトス、兼ニ補<sup>ニ</sup>補<sup>ニ</sup>ニテ出鋼不可能ナルトキハ、ノ中量<sup>ノ</sup>其他ニテ出鋼ス。

99300000

**清津**

統制會社の設立は年 200,000 TON 以上、高輪西へ、要望年 50,000 TON を合併して案面也。(注、輪西に於ける統制會社は、朝鮮鐵鋼生産困難ナリ)

滿洲重工業は年持、15 TON 級及國産轉爐、一式國産 700 TON 以上を以て清津に 15 TON 級轉爐 3 基を建設ス。その 3 基を以て年 250,000 TON、生鋼を得べし。

滿洲鮮高國産重工業は 10 TON 級電氣轉爐 4 基を以て年 200,000 TON 以上を以て之を建設ス。20,000 TON 特殊鋼 2 塊を得、製器は 36,000 TON を得べし。依つて歩出は 2 考慮せらる。

250,000 - 36,000 = 210,000 TON 鐵鋼原料を得べし、出來得る鋼塊又、大型壓延工場を設置スルヲ可トス。

鋼材の關係

八幡	10,000 T	} 鋼材を要ス。
釜本浦	9,000	
清津	9,000	

1 3 5 0 0 0 0 0 0

海南島鐵石 300 万吨輸送ノ場合日鐵對處方針

昭和 4-10 作業者

製鋼用引管 1000,000 吨  
釜石製鐵所

海南島鐵石 150,000 吨は、約 20%、釜石製鐵所に含み、良質鐵鐵

110,000 T/年を得、之を以て管材、鐵材を増産スルヲ可トス。

廣畑製鐵所

300,000 吨大冶、代り=使用スルコト=依り、鐵鐵 40,000 T/年、増産を得。

八幡製鐵所

1000,000 吨使用スルコト=依り、大冶、場合=此の鐵鐵 130,000 T、増産を得。

小倉製鐵所

150,000 吨使用=依り 110,000 T、良質鐵鐵を得、本行=70-75 噸位を製スルヲ可トス。